

## 2. 主な調査結果

### 1) 運動・スポーツ実施状況と実施頻度

#### ①運動・スポーツ実施状況

今回の調査で明らかにした過去4ヵ月(2020年6~9月)の種目別運動・スポーツ実施状況について、6月に実施した前回調査(2~5月の実施状況)の結果と比較した(図表1)。全体の実施状況をみると「運動・スポーツを行っていない」は2~5月49.9%、6~9月55.2%と非実施者の割合は増加している。6~9月の種目別実施率をみると、「ウォーキング」23.1%が1位、以下、「散歩(ぶらぶら歩き)」12.2%、「筋力トレーニング」9.7%、「ジョギング・ランニング」5.5%、「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」4.0%と続く。実施率上位5種目は2~5月の結果と同様であったが、実施率はどの種目も減少していた。特に「散歩(ぶらぶら歩き)」の実施率の減少が大きい。

上位20種目について、実施率の増減をみると、「ウォーキング」や「散歩(ぶらぶら歩き)」など自宅や自宅周辺で行える種目の実施率が減少する一方で、「ゴルフ(コース)」3.0%から3.5%、「ゴルフ(練習場)」2.7%から3.2%、「水泳」1.5%から2.2%、「テニス(硬式テニス)」1.2%から1.4%と施設を利用して行う種目の実施率は微増している。新型コロナウイルスの影響で休業していた施設が6月以降、徐々に再開したため、これらの種目の実施率が増加したと推察できる。

図表1 種目別運動・スポーツ実施率

2020年2~5月 (n=5,000)			2020年6~9月 (n=5,000)		
順位	実施種目	実施率(%)	順位	実施種目	実施率(%)
1	ウォーキング	27.1	1	ウォーキング	23.1
2	散歩(ぶらぶら歩き)	18.4	2	散歩(ぶらぶら歩き)	12.2
3	筋力トレーニング	11.4	3	筋力トレーニング	9.7
4	ジョギング・ランニング	6.4	4	ジョギング・ランニング	5.5
5	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	5.9	5	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	4.0
6	サイクリング	4.0	6	ゴルフ(コース)	3.5
7	ゴルフ(コース)	3.0	7	サイクリング	3.3
8	ゴルフ(練習場)	2.7	8	ゴルフ(練習場)	3.2
9	ヨガ	2.5	9	ヨガ	2.6
10	キャッチボール	2.1	10	水泳	2.2
11	なわとび	1.8	11	釣り	1.8
12	釣り	1.6		登山	1.8
13	エアロビックダンス	1.5	13	テニス(硬式テニス)	1.4
	水泳	1.5		ハイキング	1.4
	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	1.3	15	キャッチボール	1.3
15	ハイキング	1.3		アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	1.2
	バドミントン	1.3	16	海水浴	1.2
	サッカー	1.2		キャンプ	1.2
18	テニス(硬式テニス)	1.2	19	エアロビックダンス	1.1
	スキー	1.1		なわとび	1.1
20	ボウリング	1.1			
	運動・スポーツは行っていない	49.9		運動・スポーツは行っていない	55.2

図表 2 には種目別運動・スポーツ実施率を性別に示した。男女とも上位 3 種目は両期間とも「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」「筋力トレーニング」であり、いずれの種目も 2020 年 2～5 月よりも 6～9 月の実施率は減少している。一方、実施率が微増した種目もあり、男性では「ゴルフ(コース)」0.7 ポイント増(5.1%→5.8%)、「ゴルフ(練習場)」0.9 ポイント増(4.4%→5.3%)、「水泳」2.4%は 2～5 月の上位 10 種目に入っていないが、6～9 月には 9 位となった。女性は「ヨガ」0.3 ポイント増(4.4%→4.7%)、「水泳」0.4 ポイント増(1.5%→1.9%)、「ピラティス」1.5%が 6～9 月の結果で 10 位となった。さらに 6～9 月の種目ごとの実施率を性別にみると、「ウォーキング」は男性 25.8%、女性 20.4%、「筋力トレーニング」は男性 12.5%、女性 7.0%など男性のほうが実施率の高い種目は多い。「運動・スポーツを行っていない」は男性(49.9%)より女性(60.5%)の割合が高く、いずれも 2～5 月より増加している。

図表 2 性別の運動・スポーツ実施率

男 性					
2020年2～5月 (n=2,471)			2020年6～9月 (n=2,471)		
順位	実施種目	実施率(%)	順位	実施種目	実施率(%)
1	ウォーキング	29.1	1	ウォーキング	25.8
2	散歩(ぶらぶら歩き)	17.8	2	筋力トレーニング	12.5
3	筋力トレーニング	14.3	3	散歩(ぶらぶら歩き)	12.2
4	ジョギング・ランニング	8.8	4	ジョギング・ランニング	7.9
5	サイクリング	5.2	5	ゴルフ(コース)	5.8
6	ゴルフ(コース)	5.1	6	ゴルフ(練習場)	5.3
7	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	4.5	7	サイクリング	4.5
8	ゴルフ(練習場)	4.4	8	釣り	3.0
9	キャッチボール	3.2	9	水泳	2.4
10	釣り	2.5		体操(軽い体操、ラジオ体操など)	2.4
運動・スポーツは行っていない		45.6	運動・スポーツは行っていない		49.9

女 性					
2020年2～5月 (n=2,529)			2020年6～9月 (n=2,529)		
順位	実施種目	実施率(%)	順位	実施種目	実施率(%)
1	ウォーキング	25.2	1	ウォーキング	20.4
2	散歩(ぶらぶら歩き)	19.0	2	散歩(ぶらぶら歩き)	12.1
3	筋力トレーニング	8.6	3	筋力トレーニング	7.0
4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	7.4	4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	5.5
5	ヨガ	4.4	5	ヨガ	4.7
6	ジョギング・ランニング	4.1	6	ジョギング・ランニング	3.1
7	サイクリング	2.8	7	サイクリング	2.2
8	なわとび	2.3	8	水泳	1.9
9	エアロビックダンス	2.0	9	エアロビックダンス	1.6
10	水泳	1.5	10	なわとび	1.5
				ピラティス	1.5
運動・スポーツは行っていない		54.1	運動・スポーツは行っていない		60.5

図表 3 には各期間の種目別運動・スポーツ実施率を年代別に示した。各年代、両期間で「ウォーキング」の実施率が最も高いものの、2020年2～5月と6～9月を比較するといずれの年代でも実施率は減少している。70歳代は8.0ポイント減(42.5%→34.5%)、60歳代は4.9ポイント減(33.4%→28.5%)と中高齢者の「ウォーキング」の実施率は他の年代よりも減少幅が大きい。「ウォーキング」や「ジョギング・ランニング」は各年代で実施率の減少が確認できる一方、30歳代、50歳以上では「ゴルフ(コース)」「ゴルフ(練習場)」、40歳代、60歳以上では「ヨーガ」の実施率が2020年2～5月と比べ微増している。

図表 3 年代別の運動・スポーツ実施率

18～29 歳						30 歳代					
2020年2～5月(n=766)			2020年6～9月(n=766)			2020年2～5月(n=811)			2020年6～9月(n=811)		
順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)
1	ウォーキング	20.1	1	ウォーキング	18.3	1	ウォーキング	21.9	1	ウォーキング	18.4
2	筋力トレーニング	17.9	2	筋力トレーニング	14.0	2	散歩(ぶらぶら歩き)	16.3	2	筋力トレーニング	11.2
3	散歩(ぶらぶら歩き)	15.9	3	散歩(ぶらぶら歩き)	11.0	3	筋力トレーニング	14.2	3	散歩(ぶらぶら歩き)	9.4
4	ジョギング・ランニング	10.2	4	ジョギング・ランニング	8.4	4	ジョギング・ランニング	9.5	4	ジョギング・ランニング	7.2
5	サイクリング	4.2	5	キャッチボール	3.5	5	サイクリング	4.1	5	サイクリング	3.6
6	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	3.8	6	アイススケート	3.3	6	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	3.7	6	ゴルフ(コース)	2.7
7	キャッチボール	3.4	7	サッカー	2.6	7	なわとび	2.3	7	ゴルフ(練習場)	2.7
7	サッカー	3.4	8	サイクリング	2.5	8	ヨーガ	2.2	8	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	2.1
9	アイススケート	3.3		アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	2.2	9	キャッチボール	2.1	8	登山	2.1
10	なわとび	2.7	9	海水浴	2.2	10	釣り	1.8	10	テニス(硬式テニス)	2.0
				水泳	2.2						
				体操(軽い体操、ラジオ体操など)	2.2						

40 歳代						50 歳代					
2020年2～5月(n=958)			2020年6～9月(n=958)			2020年2～5月(n=804)			2020年6～9月(n=804)		
順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)
1	ウォーキング	20.6	1	ウォーキング	18.0	1	ウォーキング	25.7	1	ウォーキング	22.0
2	散歩(ぶらぶら歩き)	14.4	2	筋力トレーニング	8.9	2	散歩(ぶらぶら歩き)	16.0	2	散歩(ぶらぶら歩き)	10.9
3	筋力トレーニング	10.3	2	散歩(ぶらぶら歩き)	8.9	3	筋力トレーニング	9.2	3	筋力トレーニング	9.2
4	ジョギング・ランニング	6.9	4	ジョギング・ランニング	6.5	4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	6.3	4	ジョギング・ランニング	4.7
5	サイクリング	4.4	5	サイクリング	3.4	5	ジョギング・ランニング	4.9	5	サイクリング	3.6
6	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	3.9	5	釣り	3.4	6	サイクリング	3.7	6	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	3.5
7	なわとび	3.1	7	ヨーガ	3.2	7	ヨーガ	3.5	7	ヨーガ	2.9
8	ゴルフ(コース)	2.9	8	水泳	2.7	8	ゴルフ(コース)	2.0	8	ゴルフ(練習場)	2.6
9	キャッチボール	2.6	9	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	2.4	8	ゴルフ(練習場)	2.0	9	ゴルフ(コース)	2.5
10	ヨーガ	2.4	10	キャンプ	2.3	10	キャッチボール	1.6	10	登山	2.0
							ハイキング	1.6			

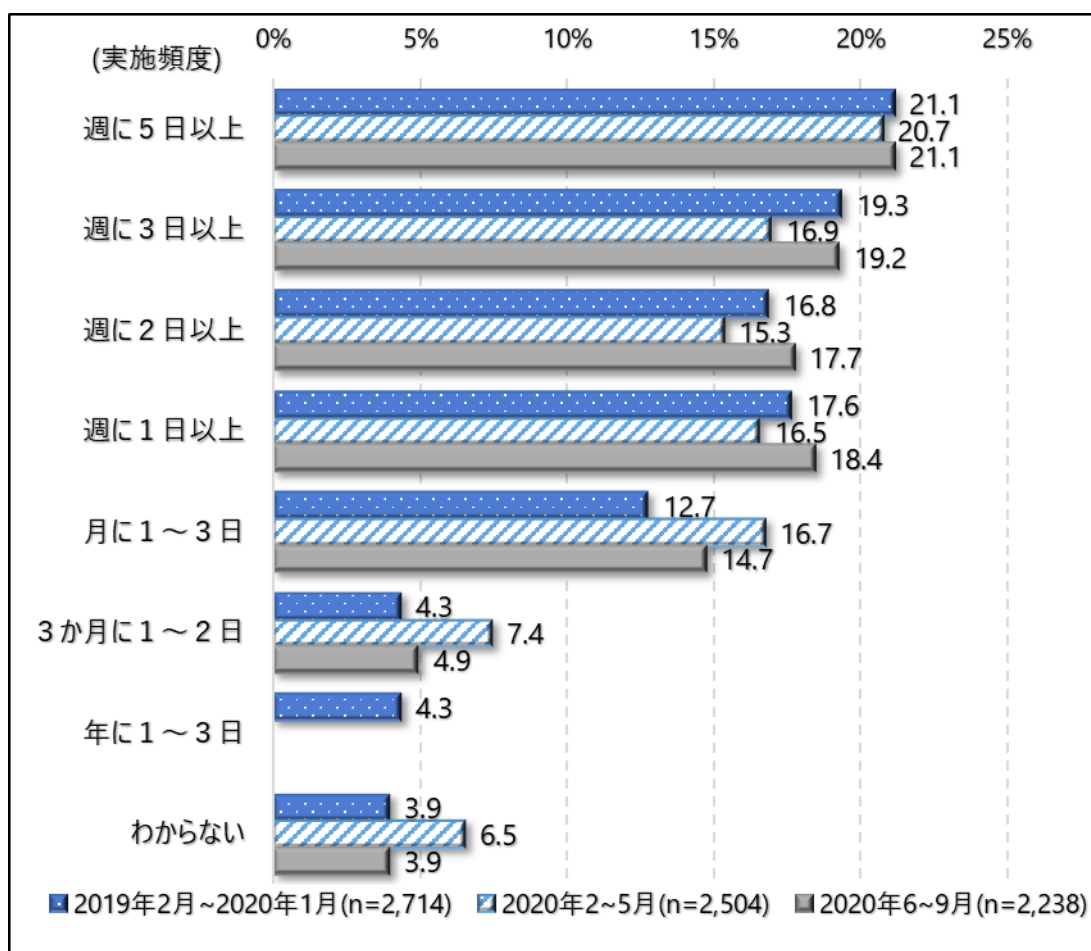
60 歳代						70 歳代					
2020年2～5月(n=937)			2020年6～9月(n=937)			2020年2～5月(n=724)			2020年6～9月(n=724)		
順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)
1	ウォーキング	33.4	1	ウォーキング	28.5	1	ウォーキング	42.5	1	ウォーキング	34.5
2	散歩(ぶらぶら歩き)	21.2	2	散歩(ぶらぶら歩き)	13.4	2	散歩(ぶらぶら歩き)	27.9	2	散歩(ぶらぶら歩き)	20.6
3	筋力トレーニング	8.4	3	筋力トレーニング	6.9	3	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	12.6	3	筋力トレーニング	9.0
4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	6.3	4	ゴルフ(コース)	5.3	4	筋力トレーニング	9.1	4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	8.8
5	ゴルフ(コース)	4.7	4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	5.3	5	ゴルフ(コース)	5.5	5	ゴルフ(コース)	7.2
5	ゴルフ(練習場)	4.7	6	ゴルフ(練習場)	5.0	6	ゴルフ(練習場)	3.7	6	ゴルフ(練習場)	5.1
7	ジョギング・ランニング	4.4	7	ジョギング・ランニング	3.7	7	サイクリング	3.3	7	ヨーガ	3.9
8	サイクリング	3.9	8	サイクリング	3.5	8	ヨーガ	2.9	8	水泳	3.6
9	ハイキング	2.5	9	ヨーガ	2.7	9	ジョギング・ランニング	2.6	9	サイクリング	3.2
9	ヨーガ	2.5	10	ハイキング	2.3	10	水泳	2.5	10	テニス(硬式テニス)	2.6

## ②運動・スポーツの実施頻度

図表4には2020年6～9月の期間に運動・スポーツを実施した平均日数を示し、前回調査の結果と比較した。2020年6～9月の実施頻度は「週に5日以上」21.1%が最も高く、「週に3日以上」19.2%、「週に2日以上」17.7%、「週に1日以上」18.4%であり、いずれも2～5月の実施頻度よりも高い。一方、「月に1～3日」14.7%、「3か月に1～2日」4.9%は2～5月より低く、6～9月の実施頻度全体でみると増加している。

また、新型コロナウイルスの感染拡大前である2019年2月～2020年1月と2020年6～9月の実施頻度を比較すると、「週に5日以上」は両期間とも21.1%、「週に3日以上」は19.3%、19.2%、「週に2日以上」は16.8%、17.7%、「週に1日以上」は17.6%、18.4%と週に1～2日以上の割合は微増し、それ以上の頻度も差はほとんどみられなかった。6～9月の運動・スポーツ実施率は、6月の前回調査からは減少したものの、運動・スポーツを実施している人の頻度は感染拡大前に戻りつつある。

図表4 運動・スポーツ実施頻度

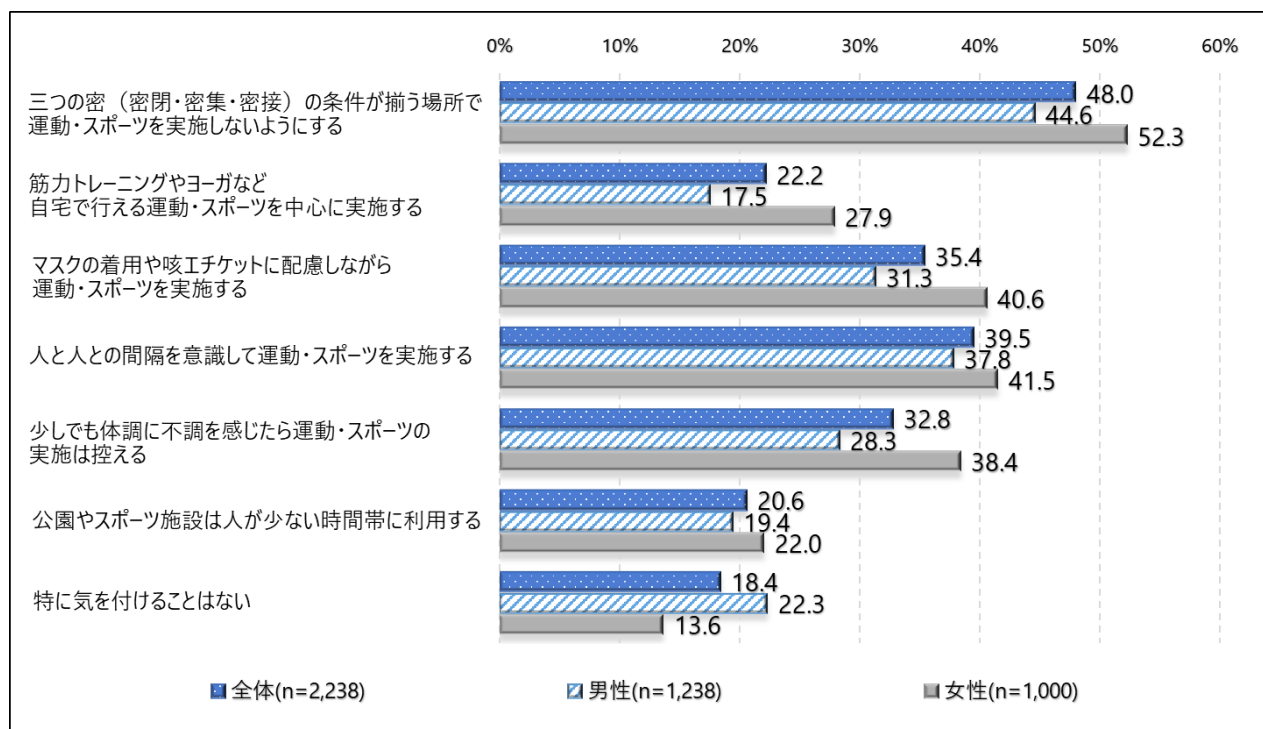


## 2) 運動・スポーツを実施する際に気を付けたいこと・やらない理由

図表5には2020年6～9月に何らかの運動・スポーツを実施した人に、実施する際に気を付けていることをたずねた結果を示した。「三つの密(密閉・密集・密接)の条件が揃う場所で運動・スポーツを実施しないようにする」48.0%が最も高く、「人と人との間隔を意識して運動・スポーツを実施する」39.5%、「マスクの着用や咳エチケットに配慮しながら運動・スポーツを実施する」35.4%と続く。三つの密の回避、人と人との間隔へ

の意識、マスクの着用は、厚生労働省が示す新型コロナウイルスへの感染対策において効果的な取り組みであり、日常生活に限らずスポーツ活動の場でもこれらの対策に対する意識の高さがうかがえる。また、「特に気を付けることはない」を除くすべての項目において男性より女性の割合が高く、女性のほうが感染に気を付けながら運動・スポーツを実施している。

図表 5 運動・スポーツをする際に気を付けていること



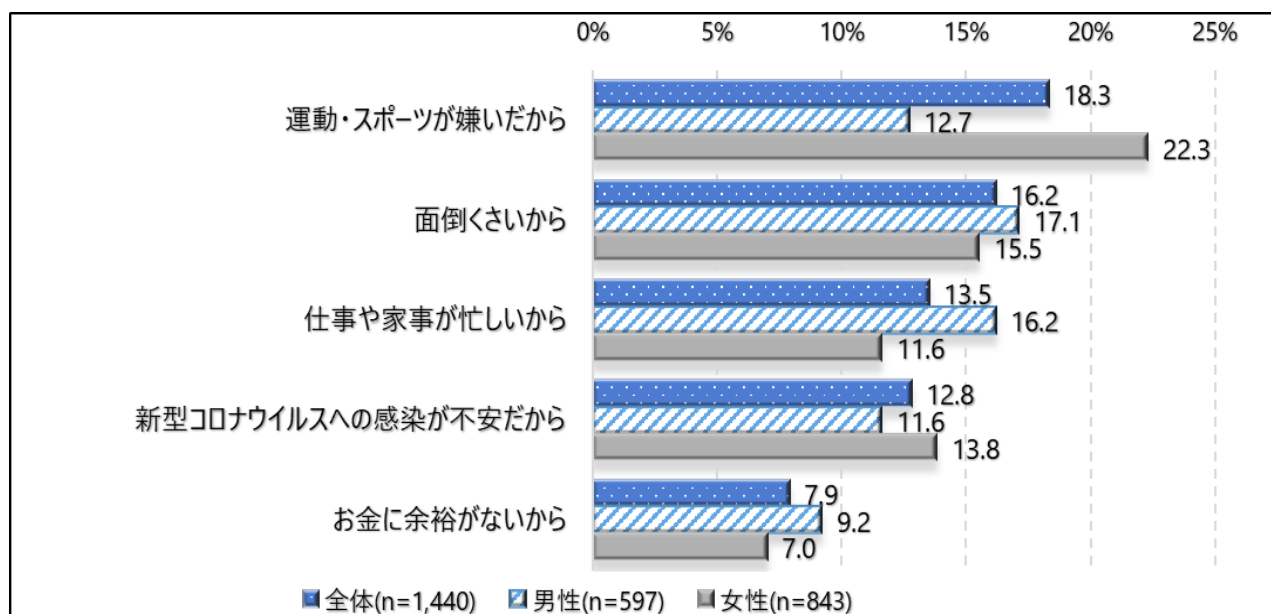
図表 6 には 2020 年 6～9 月の間に運動・スポーツを実施しなかった人の行わなかった理由（複数回答）を示した。全体では「面倒くさいから」16.5%が最も高く、以下、「運動・スポーツが嫌いだから」14.0%、「仕事や家事が忙しいから」11.8%、「新型コロナウイルスへの感染が不安だから」10.9%。「お金に余裕がないから」10.0%と続く。性別にみると上位 5 つの項目は全体と変わらないものの順位は異なり、男性の 1 位は「面倒くさいから」15.6%、2 位「仕事や家事が忙しいから」12.1%、女性の 1 位は「運動・スポーツが嫌いだから」17.7%、2 位は「面倒くさいから」17.2%であった。「新型コロナウイルスへの感染が不安だから」は男性（5 位 9.0%）より女性（3 位 12.4%）のほうが順位、割合ともに高く、新型コロナウイルスに対する不安の大きさがうかがえる。

図表 7 に示した運動・スポーツを行わなかった最も大きな理由の上位 5 項目をみると、「運動・スポーツが嫌いだから」18.3%が最も高く、男性（12.7%）と女性（22.3%）の割合には約 10 ポイントの差があり、女性のほうが運動・スポーツ嫌いを理由に実施しない人が多い。一方で「仕事や家事が忙しいから」は全体 13.5%、男性 16.2%、女性 11.6%と男性のほうが 4.6 ポイント高い。運動・スポーツを実施しない理由は項目による性差が確認された。

図表 6 運動・スポーツを行わなかった理由(複数回答)

順位	全体 (n=2,762)	割合 (%)	男性 (n=1,233)	割合 (%)	女性 (n=1,529)	割合 (%)
1	面倒くさいから	16.5	面倒くさいから	15.6	運動・スポーツが嫌いだから	17.7
2	運動・スポーツが嫌いだから	14.0	仕事や家事が忙しいから	12.1	面倒くさいから	17.2
3	仕事や家事が忙しいから	11.8	運動・スポーツが嫌いだから	9.4	新型コロナウイルスへの感染が不安だから	12.4
4	新型コロナウイルスへの感染が不安だから	10.9	お金に余裕がないから	9.2	仕事や家事が忙しいから	11.6
5	お金に余裕がないから	10.0	新型コロナウイルスへの感染が不安だから	9.0	お金に余裕がないから	10.7
6	年をとったから	6.9	年をとったから	7.6	年をとったから	6.3
7	生活や仕事で体を動かしているから	4.6	運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	4.4	生活や仕事で体を動かしているから	5.0
8	運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	4.3	生活や仕事で体を動かしているから	4.0	場所や施設がないから	4.3
9	場所や施設がないから	3.9	仲間がいないから	3.8	運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	4.2
10	病气やけがをしているから	3.8	病气やけがをしているから	3.6	子どもに手がかかるから	4.0

図表 7 運動・スポーツを行わなかった最も大きな理由

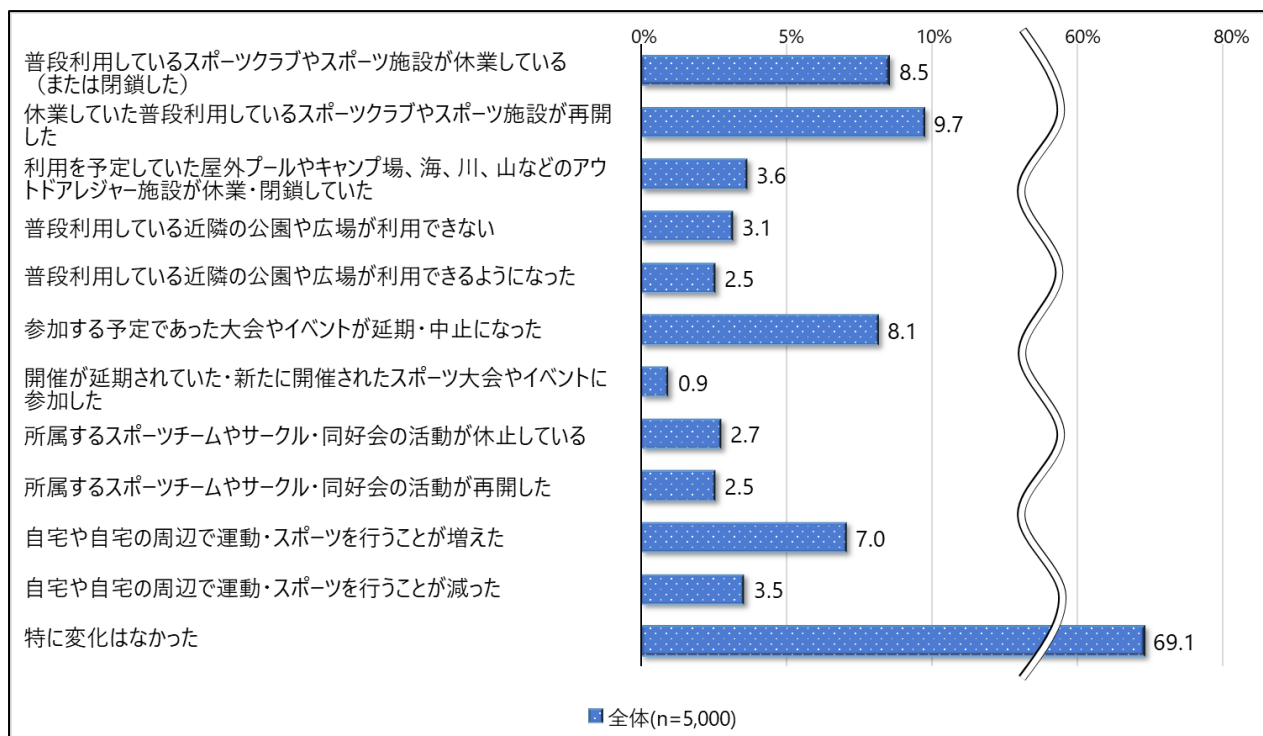


### 3) 新型コロナウイルスの影響によるスポーツ環境の変化

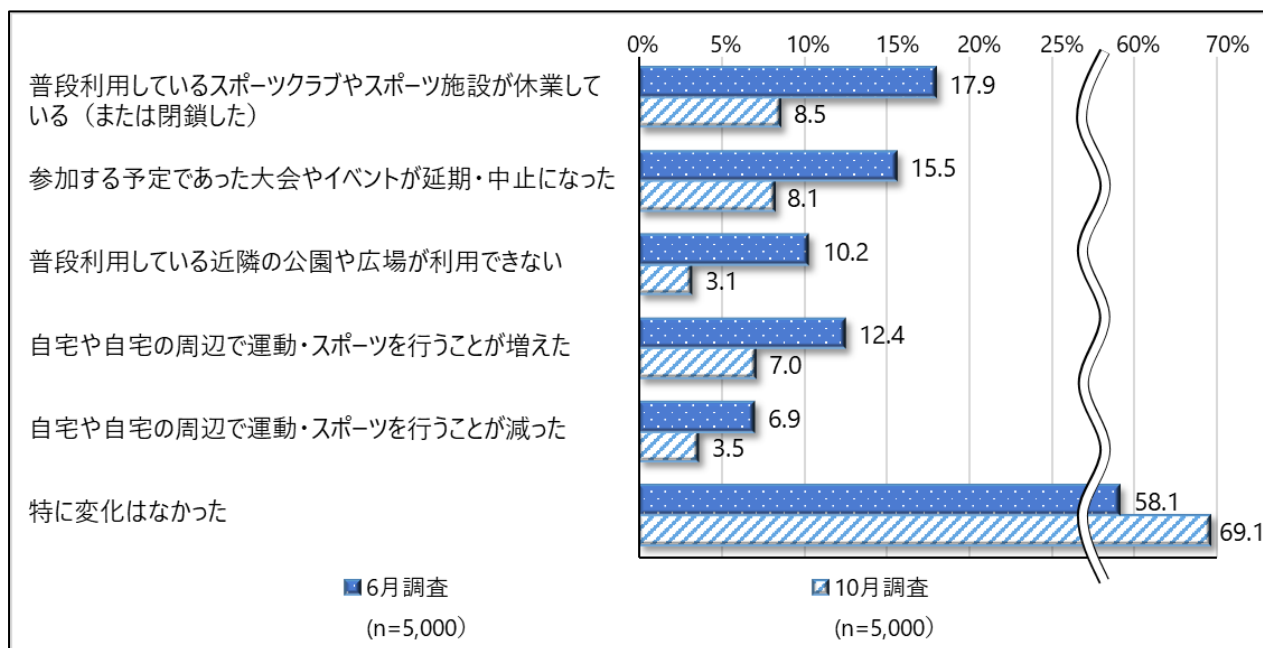
図表 8 に示した、新型コロナウイルス感染拡大の影響により変化した運動・スポーツの環境をみると「休業していた普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設が再開した」は 9.7%、「普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設が休業している(または閉鎖した)」が 8.5%であり、スポーツ施設に関しては再開が休業(または閉鎖)の数値を上回る結果であった。一方、公園や近隣の広場、スポーツ大会やイベントの項目では「利用できない」「延期・中止になった」の割合のほうが高く、新型コロナウイルスは人々のスポーツ環境に引き続き影響を与えている。

図表 9 に示した 6 月調査との比較をみると「普段利用しているスポーツクラブやスポーツ施設が休業している(または閉鎖した)」は 9.4 ポイント減(17.9%→8.5%)、「普段利用している近隣の公園や広場が利用できない」は 7.1 ポイント減(10.2%→3.1%)と新型コロナウイルスの影響によるスポーツ活動の場の減少は 6 月調査の時点よりも緩和されたと考えられる。

図表 8 新型コロナウイルスの影響により変化した運動・スポーツ環境



図表 9 新型コロナウイルスの影響により変化した運動・スポーツ環境(6月調査との比較)



#### 4) スポーツ観戦状況

##### ① 直接スポーツ観戦

図表 10 には、2019 年 6 月～2020 年 5 月および 2020 年 6～9 月の期間に競技場やグラウンド等で直接スポーツを観戦した人の割合上位 5 種目を示した。何らかのスポーツを直接観戦した人の割合は 2019 年 6 月～2020 年 5 月が 16.4%(100-「この期間にスポーツ観戦はしていない」83.6%)、2020 年 6～9 月が 9.0%であった。

2019 年 6 月～2020 年 5 月は、「プロ野球(NPB)」8.7%が 1 位、以下「J リーグ(J1、J2、J3)」3.4%、「高校野球」1.9%と続く。2020 年 6～9 月は、「プロ野球(NPB)」4.0%が 1 位、以下「J リーグ(J1、J2、J3)」1.5%、「高校野球」「大相撲」1.0%と続く。期間の長さが異なるため、一概に比較できないが、観戦率の高い上位 4 種目は両期間において同様の結果であり、観戦率はどの種目も減少傾向であった。これは、2020 年 6～9 月はプロ野球(NPB)、J リーグ(J1、J2、J3)、大相撲などにおいて、有観客での試合が再開した時期であり、まだ直接観戦に対して慎重であったことが要因の1つと考えられる。

性別にみると、男女ともに両期間の 1 位は「プロ野球(NPB)」であり、男性(11.5%、5.2%)は女性(6.0%、2.9%)であった。男性の 2 位以下は、2019 年 6 月～2020 年 5 月では「J リーグ(J1、J2、J3)」4.5%、「高校野球」2.1%、2020 年 6～9 月では「J リーグ(J1、J2、J3)」2.5%、「大相撲」1.2%と続く。女性の 2 位以下は 2019 年 6 月～2020 年 5 月では「J リーグ(J1、J2、J3)」2.4%、「高校野球」1.6%、2020 年 6～9 月では「高校野球」1.0%、「大相撲」0.8%と続く。

年代別にみると、両期間とも全年代の 1 位は「プロ野球(NPB)」であり、観戦率は 18～29 歳が最も高い(11.1%、6.1%)。「プロ野球(NPB)」の 2019 年 6 月～2020 年 5 月から 2020 年 6～9 月にかけての差をみると、全ての年代で観戦率は減少しており、30 歳代の 5.3 ポイント減(9.4%→4.1%)が最も大きく、40 歳代 5.2 ポイント減(9.4%→4.2%)、18～29 歳 5.0 ポイント減(11.1%→6.1%)と特に若い世代の減少が目立った。比較する期間が 1 年間に対して 4 ヶ月と短く、また直接観戦が再開され、感染防止策として収容人数の制限が行われていたため、今後どのように推移するか引き続き注視したい。



図表 10 種目別直接スポーツ観戦率(性別・年代別)

全 体(n=5,000)			男 性(n=2,471)			女 性(n=2,529)					
順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)	
		2019年6月 ~ 2020年5月	2020年 6~9月			2019年6月 ~ 2020年5月	2020年 6~9月			2019年6月 ~ 2020年5月	2020年 6~9月
1	プロ野球 (NPB)	8.7	4.0	1	プロ野球 (NPB)	11.5	5.2	1	プロ野球 (NPB)	6.0	2.9
2	Jリーグ (J1、J2、J3)	3.4	1.5	2	Jリーグ (J1、J2、J3)	4.5	2.5	2	Jリーグ (J1、J2、J3)	2.4	0.6
3	高校野球	1.9	1.0	3	高校野球	2.1	0.9	3	高校野球	1.6	1.0
4	大相撲	1.4	1.0	4	大相撲	1.8	1.2	4	マラソン・駅伝	1.3	0.2
5	マラソン・駅伝	1.3	0.3	5	ラグビー	1.7	0.4	5	大相撲	1.0	0.8
	ラグビー	1.3	0.3								
	この期間にスポーツ観戦はしていない	83.6	91.0		この期間にスポーツ観戦はしていない	80.3	88.7		この期間にスポーツ観戦はしていない	86.8	93.3
18~29 歳(n=766)			30 歳 代(n=811)			40 歳 代(n=958)					
順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)	
		2019年6月 ~ 2020年5月	2020年 6~9月			2019年6月 ~ 2020年5月	2020年 6~9月			2019年6月 ~ 2020年5月	2020年 6~9月
1	プロ野球 (NPB)	11.1	6.1	1	プロ野球 (NPB)	9.4	4.1	1	プロ野球 (NPB)	9.4	4.2
2	Jリーグ (J1、J2、J3)	4.7	2.3	2	Jリーグ (J1、J2、J3)	4.6	2.5	2	Jリーグ (J1、J2、J3)	3.5	1.1
3	高校野球	2.9	1.3	3	高校野球	1.5	0.9	3	ラグビー	2.8	0.8
4	アマチュア野球 (大学、社会人など)	1.6	1.2		海外プロサッカー (欧州、南米など)	1.2	1.0	4	高校野球	2.3	1.4
	サッカー-日本代表試合(五輪代表含む)	1.6	0.8	4	サッカー-日本代表試合(五輪代表含む)	1.2	0.9	5	マラソン・駅伝	1.4	0.2
					マラソン・駅伝	1.2	0.7				
	この期間にスポーツ観戦はしていない	79.6	86.8		この期間にスポーツ観戦はしていない	81.8	89.4		この期間にスポーツ観戦はしていない	81.6	90.6
50 歳 代(n=804)			60 歳 代(n=937)			70 歳 代(n=724)					
順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)	
		2019年6月 ~ 2020年5月	2020年 6~9月			2019年6月 ~ 2020年5月	2020年 6~9月			2019年6月 ~ 2020年5月	2020年 6~9月
1	プロ野球 (NPB)	7.6	3.0	1	プロ野球 (NPB)	7.3	3.4	1	プロ野球 (NPB)	7.7	3.5
2	Jリーグ (J1、J2、J3)	3.1	1.2	2	Jリーグ (J1、J2、J3)	2.3	0.9	2	大相撲	3.2	2.9
3	高校野球	1.7	0.7	3	大相撲	1.8	0.9	3	マラソン・駅伝	2.5	0.4
4	ラグビー	1.5	-	3	プロゴルフ	1.8	1.1	4	Jリーグ (J1、J2、J3)	2.3	1.4
5	大相撲	0.9	0.9	5	高校野球	1.3	0.4	5	高校野球	1.7	1.2
	この期間にスポーツ観戦はしていない	86.1	93.3		この期間にスポーツ観戦はしていない	86.3	93.7		この期間にスポーツ観戦はしていない	86.3	92.0

## ② テレビやインターネットによるスポーツ観戦

図表11には 2019年6月~2020年5月と2020年6~9月のテレビやインターネットでの種目別観戦率を示した。2019年6月~2020年5月の全体の観戦率は43.0%(100-「この期間にスポーツ観戦はしていない」57.0%)、男性50.5%、女性35.6%であり14.9ポイント男性のほうが高い。年代別にみると、70歳代の観戦率が57.6%と最も高く、60歳代49.6%、50歳代41.9%と続く。

2020年6~9月をみると、全体の観戦率は39.9%であり2019年6月~2020年5月より3.1ポイント低い(43.0%→39.9%)。性別にみると男性49.0%、女性31.0%であり、両期間の差は男性1.5ポイント、女性4.6ポイントであった。年代別の観戦率は、70歳代が56.2%ともっと高く、以下60歳代46.2%、50歳代37.7%と続く。両期間の観戦率で最も差が大きかった年代は50歳代の4.2ポイントであり、最も小さかった年代は18~29歳の1.3ポイントであった。

種目別でみると、2019年6月~2020年5月の全体では「プロ野球(NPB)」24.9%が最も高く、以下「大相撲」14.7%、「高校野球」12.1%、「マラソン・駅伝」9.6%、「フィギュアスケート」8.3%と続く。性別にみると男女とも1位は「プロ野球(NPB)」で男性33.3%、女性16.8%であった。2位以下は男性が「大相撲」18.4%、「高校野球」15.0%と続き、女性は「フィギュアスケート」11.5%、「大相撲」11.2%であった。年代別にみると、18歳から69歳までは「プロ野球(NPB)」が1位で、70歳代は「大相撲」が1位であった。

2020年6～9月では「プロ野球(NPB)」の観戦率が24.7%と最も高かった。以下「大相撲」14.6%、「高校野球」8.2%、「メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)」6.3%、「Jリーグ(J1、J2、J3)」6.4%と続く。上位種目のうち、2019年6月～2020年5月の観戦率との差が最も大きかった種目は「フィギュアスケート」6.2ポイント(8.3%→2.1%)であり、反対に最も差が小さかった種目は「大相撲」0.1ポイント(14.7%→14.6%)であった。フィギュアスケートはシーズンの影響と考えられ、大相撲では平常時と同様にテレビやインターネットでの観戦が行われていたといえる。性別にみると男女ともに「プロ野球(NPB)」が1位(33.4%、16.2%)であり、2位「大相撲」(17.8%、11.5%)であった。年代別にみると、18～69歳の1位は「プロ野球(NPB)」、70歳代では「大相撲」が1位であった。2020年8月に実施された「2020年甲子園高校野球交流試合」に関連して「高校野球」の各期間の観戦率の差をみると、最も差があるのは70歳代の7.3ポイント差(18.8%→11.5%)で年代が下がるにつれてその差は縮小し、18～29歳は1.7ポイント差(10.1%→8.4%)になる。インターハイをはじめとした青少年の成果を発揮する場としての試合や大会が軒並み中止となるなかで、同試合は開催されたこともあり、年代の近い若年層ほど関心をもって観戦していた可能性がある。

図表 11 テレビやインターネットで観戦した種目(全体・性別・年代別)

全 体(n=5,000)			男 性(n=2,471)			女 性(n=2,529)					
順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)	
		2019年6月 ～ 2020年5月	2020年 6～9月			2019年6月 ～ 2020年5月	2020年 6～9月			2019年6月 ～ 2020年5月	2020年 6～9月
1	プロ野球 (NPB)	24.9	24.7	1	プロ野球 (NPB)	33.3	33.4	1	プロ野球 (NPB)	16.8	16.2
2	大相撲	14.7	14.6	2	大相撲	18.4	17.8	2	フィギュアスケート	11.5	2.8
3	高校野球	12.1	8.2	3	高校野球	15.0	10.5	3	大相撲	11.2	11.5
4	マラソン・駅伝	9.6	2.7	4	Jリーグ (J1、J2、J3)	11.0	9.8	4	高校野球	9.3	5.9
5	フィギュアスケート	8.3	2.1	5	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	10.2	10.1	5	マラソン・駅伝	9.2	2.6
	この期間にスポーツ観戦はしていない	57.0	60.1		この期間にスポーツ観戦はしていない	49.5	51.0		この期間にスポーツ観戦はしていない	64.4	69.0
18～29 歳(n=766)			30 歳代(n=811)			40 歳代(n=958)					
順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)	
		2019年6月 ～ 2020年5月	2020年 6～9月			2019年6月 ～ 2020年5月	2020年 6～9月			2019年6月 ～ 2020年5月	2020年 6～9月
1	プロ野球 (NPB)	19.6	19.1	1	プロ野球 (NPB)	22.4	21.8	1	プロ野球 (NPB)	22.2	21.7
2	高校野球	10.1	8.4	2	Jリーグ (J1、J2、J3)	8.3	7.5	2	高校野球	10.3	7.6
3	Jリーグ (J1、J2、J3)	5.9	5.1	3	高校野球	8.0	5.9	3	大相撲	10.0	9.1
4	サッカー-日本代表試合(五輪代表含む)	4.8	2.2	4	大相撲	7.5	7.4	4	マラソン・駅伝	7.5	2.4
5	大相撲	4.2	4.0	5	サッカー-日本代表試合(五輪代表含む)	6.4	2.8	5	Jリーグ (J1、J2、J3)	7.1	5.3
	この期間にスポーツ観戦はしていない	66.3	67.6		この期間にスポーツ観戦はしていない	61.4	65.5		この期間にスポーツ観戦はしていない	62.6	66.0
50 歳代(n=804)			60 歳代(n=937)			70 歳代(n=724)					
順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)		順位	種 目	観戦率(%)	
		2019年6月 ～ 2020年5月	2020年 6～9月			2019年6月 ～ 2020年5月	2020年 6～9月			2019年6月 ～ 2020年5月	2020年 6～9月
1	プロ野球 (NPB)	25.7	25.2	1	プロ野球 (NPB)	26.7	27.5	1	大相撲	34.0	34.4
2	高校野球	12.8	8.3	2	大相撲	21.7	22.3	2	プロ野球 (NPB)	33.7	33.7
3	大相撲	12.2	11.7	3	マラソン・駅伝	14.1	3.5	3	マラソン・駅伝	18.9	5.8
4	フィギュアスケート	9.7	2.0	4	フィギュアスケート	13.8	2.9	4	高校野球	18.8	11.5
5	マラソン・駅伝	9.1	1.9	5	高校野球	13.4	7.9	5	フィギュアスケート	14.8	4.0
	この期間にスポーツ観戦はしていない	58.1	62.3		この期間にスポーツ観戦はしていない	50.4	53.8		この期間にスポーツ観戦はしていない	42.4	43.8

## 5) スタジアムにおける感染対策への評価とイベント主催者に期待する対策

2020年6～9月の期間にスタジアムや競技場に足を運んで観戦したと回答した人を対象に、会場で実施されていた感染対策が「十分だと感じた」人の割合を図表12に示した。全体では「アルコール消毒設備の設置やスタッフのマスク着用、室内の換気」が72.9%と最も高く、「入場時の検温」70.7%、「来場者へマスク着用を呼び掛けるなど、感染拡大防止のための注意喚起」70.1%と続く。

性別にみると、男性は「アルコール消毒設備の設置やスタッフのマスク着用、室内の換気」73.8%が最も高く、以下「来場者へマスク着用を呼び掛けるなど、感染拡大防止のための注意喚起」70.8%、「入場時の検温」68.8%と続く。女性は「入場時の検温」74.0%が最も高く、以下「アルコール消毒設備の設置やスタッフのマスク着用、室内の換気」71.4%、「選手と間近で関われる各種イベントの中止」70.6%と続く。男女で最も差があった項目は、「飲食物の持ち込みや販売の制限」で男性59.9%、女性65.2%で5.3ポイント差であった。

性・年代別では、各年代とも上位3項目が男女で異なる結果であった。また最も評価された項目と評価されなかった項目の差をみると、18～29歳は男女ともに差が小さい(13.9ポイント、10.8ポイント)が、70歳代男性は39.5ポイント差、50歳代女性は31.9ポイント差と若い世代ほど対策を評価している傾向がみられた。

図表12 スタジアムや競技場における感染対策への評価

	全体 (n=336)	男性						
		男性全体 (n=210)	18-29歳 (n=60)	30歳代 (n=45)	40歳代 (n=41)	50歳代 (n=23)	60歳代 (n=22)	70歳代 (n=19)
アルコール消毒設備の設置やスタッフのマスク着用、室内の換気	72.9	73.8	71.7	75.6	65.9	69.6	86.4	84.2
来場者へマスク着用を呼び掛けるなど、感染拡大防止のための注意喚起	70.1	70.8	62.9	76.7	57.8	76.2	86.4	89.5
人と人との間隔を確保するための入場者数の制限や誘導	64.0	64.5	65.5	55.6	65.9	59.1	72.7	75.0
座席ごとに入退場時間を指定するなど、人の混雑を避けるための対策	62.7	61.4	53.3	57.8	74.3	60.0	65.0	70.6
選手と間近で関われる各種イベントの中止	69.4	68.6	69.5	61.9	68.4	57.9	83.3	80.0
飲食物の持ち込みや販売の制限	61.9	59.9	62.1	52.3	61.5	66.7	68.4	50.0
大きな声での会話や応援、肩組みでの応援に対する注意喚起や制限	63.6	62.7	64.4	64.3	47.7	61.9	85.0	66.7
最寄り駅との送迎バスの運行中止	62.9	61.2	63.8	65.9	52.9	61.9	62.5	53.8
来場者に感染者が出た場合、早期に来場者へ連絡ができる仕組み	64.5	63.4	58.6	67.4	59.5	68.2	68.8	69.2
入場時の検温	70.7	68.8	65.6	62.8	68.3	72.7	80.0	77.8

	全体 (n=336)	女性						
		女性全体 (n=126)	18-29歳 (n=26)	30歳代 (n=25)	40歳代 (n=27)	50歳代 (n=18)	60歳代 (n=15)	70歳代 (n=15)
アルコール消毒設備の設置やスタッフのマスク着用、室内の換気	72.9	71.4	61.5	72.0	77.8	72.2	80.0	66.7
来場者へマスク着用を呼び掛けるなど、感染拡大防止のための注意喚起	70.1	69.0	65.5	66.7	64.3	64.7	86.7	76.9
人と人との間隔を確保するための入場者数の制限や誘導	64.0	63.2	63.0	69.2	48.0	76.5	68.8	57.1
座席ごとに入退場時間を指定するなど、人の混雑を避けるための対策	62.7	64.7	75.0	62.5	50.0	55.6	76.9	78.6
選手と間近で関われる各種イベントの中止	69.4	70.6	53.6	65.2	72.0	82.4	85.7	83.3
飲食物の持ち込みや販売の制限	61.9	65.2	54.5	56.5	56.0	76.5	84.6	80.0
大きな声での会話や応援、肩組みでの応援に対する注意喚起や制限	63.6	65.1	50.0	62.5	59.3	70.6	80.0	86.7
最寄り駅との送迎バスの運行中止	62.9	66.3	65.4	72.2	50.0	75.0	63.6	80.0
来場者に感染者が出た場合、早期に来場者へ連絡ができる仕組み	64.5	66.4	59.3	68.2	60.0	75.0	66.7	78.6
入場時の検温	70.7	74.0	70.8	56.0	76.0	87.5	87.5	76.5

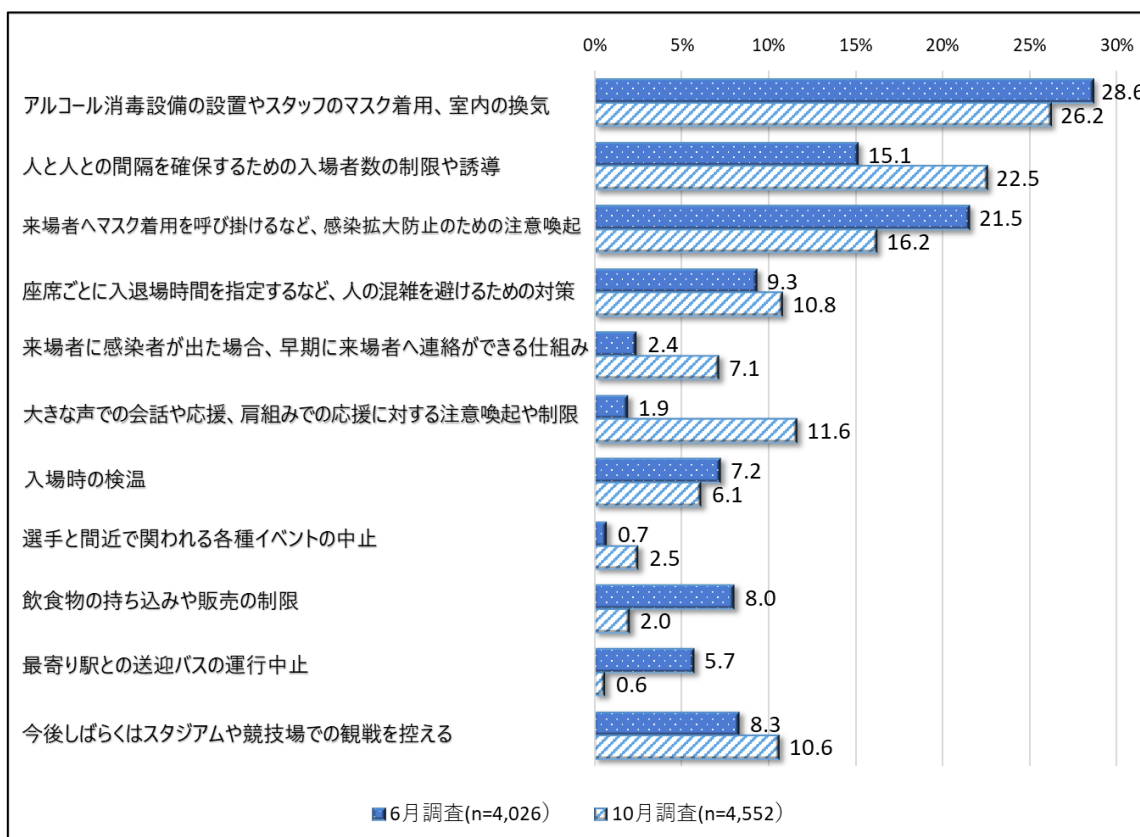
※感染対策を行っていたと回答した人のうち、「十分だと感じた」人の割合。

また、2020年6～9月の期間にスタジアムや競技場に足を運んで観戦していないと回答した人を対象に、今後スタジアムや競技場に足を運んでのスポーツ観戦を再開するために、イベント主催者に期待する対策を

図表 13 に示した。なお、図表では参考比較のため 6 月調査時の結果も合わせて記載している(2019 年 2 月～2020 年 1 月に直接観戦をしていないと回答した人を対象)。結果を比較する際には、2019 年 2 月～2020 年 1 月は新型コロナウイルスの影響がない時期であるため、6 月調査は日常的に観戦をしていない層が対象であり、10 月調査ではこの層に加えて新型コロナウイルスへの不安から観戦を控えている層も対象となっている点に留意する必要がある。10 月調査では、期待する割合が最も高い対策は「アルコール消毒設備の設置やスタッフのマスク着用、室内の換気」26.2%で、以下、「人と人との間隔を確保するための入場者数の制限や誘導」22.5%、「来場者へマスク着用を呼び掛けるなど、感染拡大防止のための注意喚起」16.2%と続く。6 月調査と比較して最も差があった対策は、「大きな声での会話や応援、肩組みでの応援に対する注意喚起や制限」は 6 月調査 1.9%に対し、10 月調査 11.6%と 9.7 ポイント増であった。そのほか、「人と人との間隔を確保するための入場者数の制限や誘導」(15.1%→22.5%)が 7.4 ポイント増であった。「アルコール消毒設備の設置やスタッフのマスク着用、室内の換気」「来場者へマスク着用を呼び掛けるなど、感染拡大防止のための注意喚起」など、すでにスポーツ以外の場面でも日常になりつつある対策よりも、プロ野球(NPB)や Jリーグ、大相撲とスポーツ観戦が再開され、メディア等で会場の様子を見聞きするなかで、より重点的に実施してほしい対策への期待が反映されていると考えられる。

また、「今後しばらくはスタジアムや競技場での観戦を控える」と回答した人は 6 月調査 8.3%、10 月調査 10.6%と観戦をしていない層の 1 割程度は引き続き慎重な姿勢であることが読み取れる。年代別にみると、10 月調査で今後しばらくは観戦を控えると回答した 50 歳以上の割合はいずれも 10%以上であるのに対し、18～29 歳は 8.0%、30 歳代は 9.9%、40 歳代は 9.7%と、若い世代ほど観戦を控えると回答した人の割合は低い(図表 14)。

図表 13 スポーツ観戦再開に向けてイベント主催者に期待する対策



図表 14 今後しばらくは直接観戦を控えると回答した割合(年代別)

(%)

	全 体 (n=4,552)	18~29歳 (n=665)	30歳代 (n=725)	40歳代 (n=868)	50歳代 (n=750)	60歳代 (n=878)	70歳代 (n=666)
今後しばらくはスタジアムや 競技場での観戦を控える	10.6	8.0	9.9	9.7	13.9	11.2	10.5

## 6) 過去1年間のスポーツ実施・観戦形態に関する経験の有無と今後のニーズ

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、運動・スポーツ実施やスポーツ観戦形態の変容が予想される。こうした状況を把握するため、一部の特徴的なスポーツ実施・観戦形態について、過去 1 年間の経験の有無と今後のニーズについてたずね、結果を図表 15 に示した。運動・スポーツ実施で経験したことのある割合が最も高い項目は、「YouTube やインスタグラムなど SNS に投稿されている動画を参考に運動・スポーツを実施する」11.8%であった。以下「ジムやスタジオ、プールなどを備えた複合型スポーツクラブへの加入」5.0%、「ヨーガや筋力トレーニングなどのサービスを提供する小規模・目的志向のスポーツクラブへの加入」3.9%と続く。性別にみると、「YouTube やインスタグラムなど SNS に投稿されている動画を参考に運動・スポーツを実施する」が男性(11.1%)、女性(12.5%)ともに最も高い。男女で経験差が最もあるものは、「ヨーガや筋力トレーニングなどのサービスを提供する小規模・目的志向のスポーツクラブへの加入」で、男性 2.3%、女性 5.5%と 3.2 ポイント差であった。年代別にみると、18~69 歳までは「YouTube やインスタグラムなど SNS に投稿されている動画を参考に運動・スポーツを実施する」が最も高いが、70 歳代は「ヨーガや筋力トレーニングなどのサービスを提供する小規模・目的志向のスポーツクラブへの加入」が 6.1%と最も高い。

また今後のニーズ(経験者の継続意向+未経験者の実施意向の合算)についてみると、全体では「YouTube やインスタグラムなど SNS に投稿されている動画を参考に運動・スポーツを実施する」が 10.3%と最も高い。また「ヨーガや筋力トレーニングなどのサービスを提供する小規模・目的志向のスポーツクラブへの加入」は 5.0%と、経験者の割合 3.9%より高く、わずかだが潜在ニーズが確認できる。さらに「オンラインで実施されるスポーツイベント・大会への参加(オンラインマラソンなど)」は男女およびすべての年代で経験者より、今後行ってみたいと回答した人が多い。

スポーツ観戦で経験したことがある割合が最も高いのは、「DAZN(ダゾーン)やパ・リーグ TV など有料動画配信サービスを利用したスポーツ観戦」の 6.4%であった。以下「スタジアムや広場などに設置された大画面でのスポーツ観戦」5.0%、「友人や知人宅・友人を自宅に招いてのスポーツ観戦」3.3%と続く。

年代別でみると、40 歳代までは「DAZN(ダゾーン)やパ・リーグ TV など有料動画配信サービスを利用したスポーツ観戦」の経験者の割合が最も高いが、50 歳代は同率、60 歳代以上では「スタジアムや広場などに設置された大画面でのスポーツ観戦」が最も高くなっている(図表 16)。

今後の実施意向についてみると、全体では「DAZN(ダゾーン)やパ・リーグ TV など有料動画配信サービスを利用したスポーツ観戦」が 6.4%と最も高い。また「スタジアムや広場などに設置された大画面でのスポーツ観戦」、「VR(Virtual Reality)観戦」は男女およびすべての年代で経験者より、今後行ってみたいと回答した人が多い。

図表 15 スポーツ実施・観戦形態の経験有無と今後の意向(全体・性別)

		全体 (n=5,000)		男性 (n=2,471)		女性 (n=2,529)	
		行ったこと がある	今後やっ てみたい	行ったこと がある	今後やっ てみたい	行ったこと がある	今後やっ てみたい
		%	%	%	%	%	%
運動・ スポ ーツ 実 施	YouTubeやInstagramなどSNSに投稿されている動画を参考に運動・スポーツを実施する	11.8	10.3	11.1	9.3	12.5	11.3
	対面式またはオンライン形式でのパーソナルトレーニング	2.2	2.7	2.5	3.2	1.9	2.1
	スポーツクラブなどが提供する有料オンラインプログラム（パーソナルを除く）	2.1	2.3	2.0	2.4	2.2	2.1
	オンラインで実施されるスポーツイベント・大会への参加（オンラインマラソンなど）	1.5	2.1	1.8	2.7	1.3	1.6
	ジムやスタジオ、プールなどを備えた複合型スポーツクラブへの加入	5.0	4.6	4.7	4.9	5.2	4.4
	ヨガや筋力トレーニングなどのサービスを提供する小規模・目的志向のスポーツクラブへの加入	3.9	5.0	2.3	3.7	5.5	6.4
	【運動・スポーツ実施】その他	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8	0.8
	【運動・スポーツ実施】あてはまるものはない	80.1	-	82.2	-	78.1	-
ス ポ ー ツ 観 戦	DAZN（ダゾーン）やパ・リーグTVなど有料動画配信サービスを利用したスポーツ観戦	6.4	6.4	8.5	8.5	4.3	4.5
	スタジアムや広場などに設置された大画面でのスポーツ観戦	5.0	6.1	6.3	7.6	3.8	4.6
	飲食店などでファン同士交流しながらのスポーツ観戦	2.8	3.2	3.4	4.0	2.3	2.5
	友人や知人宅・友人を自宅に招いてのスポーツ観戦	3.3	3.5	4.3	4.6	2.3	2.5
	VR（Virtual Reality）観戦	0.9	1.9	1.3	2.5	0.5	1.3
	リモート観戦・オンライン観戦	2.3	3.4	3.0	4.2	1.5	2.5
	【スポーツ観戦】その他	0.4	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4
	【スポーツ観戦】あてはまるものはない	84.8	-	80.9	-	88.6	-

図表 16 スポーツ実施・観戦形態の経験有無と今後の意向(年代別)

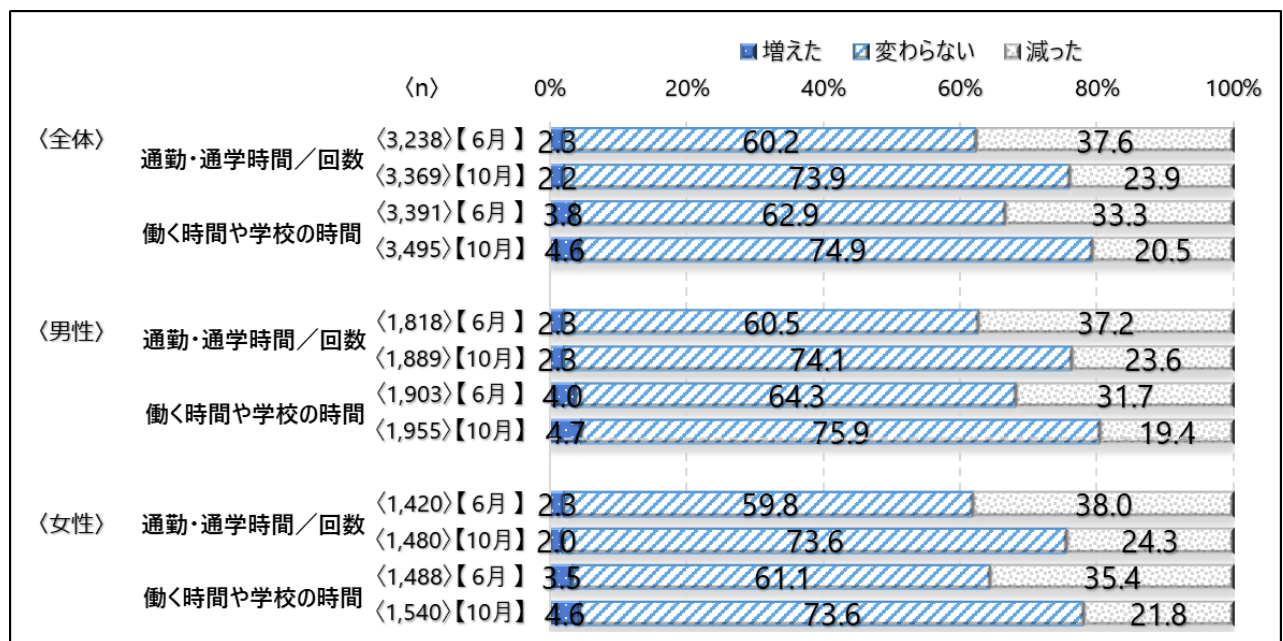
		18～29歳 (n=766)		30歳代 (n=811)		40歳代 (n=958)		50歳代 (n=804)		60歳代 (n=937)		70歳代 (n=724)	
		行ったこと がある	今後やっ てみたい	行ったこと がある	今後やっ てみたい	行ったこと がある	今後やっ てみたい	行ったこと がある	今後やっ てみたい	行ったこと がある	今後やっ てみたい	行ったこと がある	今後やっ てみたい
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
運 動 ・ ス ポ ー ツ 実 施	YouTubeやInstagramなどSNSに投稿されている動画を参考に運動・スポーツを実施する	25.2	18.9	15.9	12.5	11.7	11.0	8.0	9.1	6.3	6.2	4.8	4.7
	対面式またはオンライン形式でのパーソナルトレーニング	3.4	4.0	4.3	3.9	1.5	2.8	1.5	1.6	1.2	1.8	1.4	1.8
	スポーツクラブなどが提供する有料オンラインプログラム（パーソナルを除く）	3.9	4.7	3.3	3.3	2.2	2.6	0.7	1.0	0.7	1.1	1.8	1.1
	オンラインで実施されるスポーツイベント・大会への参加（オンラインマラソンなど）	3.1	3.3	2.6	3.6	1.6	2.2	1.0	1.6	0.3	1.4	0.7	0.8
	ジムやスタジオ、プールなどを備えた複合型スポーツクラブへの加入	5.2	5.5	5.7	4.7	4.2	4.4	4.0	3.0	5.3	5.1	5.5	5.2
	ヨガや筋力トレーニングなどのサービスを提供する小規模・目的志向のスポーツクラブへの加入	2.6	4.0	3.5	4.8	3.3	5.3	3.5	4.9	4.5	5.5	6.1	5.5
	【運動・スポーツ実施】その他	0.3	0.3	0.5	0.5	0.2	0.2	0.7	0.7	1.2	1.3	1.9	1.7
	【運動・スポーツ実施】あてはまるものはない	69.2	-	77.4	-	81.2	-	85.2	-	83.9	-	82.7	-
ス ポ ー ツ 観 戦	DAZN（ダゾーン）やパ・リーグTVなど有料動画配信サービスを利用したスポーツ観戦	12.5	11.2	9.4	9.5	6.3	6.6	5.0	5.1	3.0	3.6	2.5	2.9
	スタジアムや広場などに設置された大画面でのスポーツ観戦	6.7	7.4	5.9	7.2	6.1	7.4	5.0	6.5	3.4	4.3	2.9	3.6
	飲食店などでファン同士交流しながらのスポーツ観戦	5.1	4.8	4.3	3.8	3.5	4.1	1.6	2.4	1.4	2.1	1.1	2.1
	友人や知人宅・友人を自宅に招いてのスポーツ観戦	5.0	6.7	5.3	4.6	4.0	4.6	2.0	2.4	1.6	1.7	1.9	1.4
	VR（Virtual Reality）観戦	2.1	2.5	1.8	2.7	0.6	2.1	0.4	1.7	0.4	1.5	0.3	1.0
	リモート観戦・オンライン観戦	3.8	4.7	3.1	4.6	2.5	4.1	1.1	2.6	1.4	2.5	1.8	1.7
	【スポーツ観戦】その他	-	-	0.4	0.4	0.1	0.1	0.2	0.4	0.7	0.7	1.0	1.0
	【スポーツ観戦】あてはまるものはない	77.3	-	78.5	-	83.1	-	87.4	-	90.9	-	91.0	-

## 7) 新型コロナウイルスの影響による生活の変化

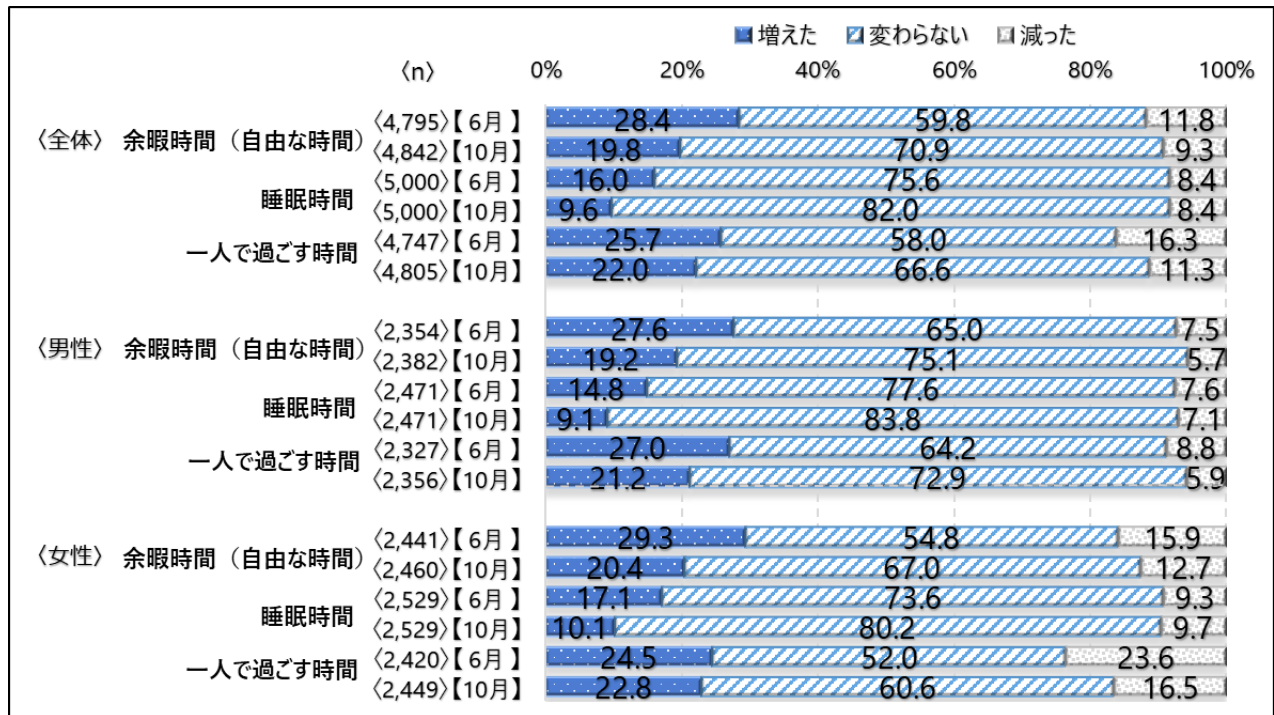
図表 17 には、新型コロナウイルスの影響による仕事や学校に関する生活の変化を示し、6 月の前回調査と比較した。「通勤・通学時間／回数」が減ったと回答した割合は 13.7 ポイント(37.6%【6月】→23.9%【10月】)減少し、「働く時間や学校の時間」が減ったと回答した割合は 12.8 ポイント(33.3%【6月】→20.5%【10月】)減少している。5 月末の緊急事態宣言解除以降、新しい生活様式にのっとった学校やオフィス勤務の再開が今回の調査結果に反映されたと考えられる。

図表 18 には余暇時間などに関する生活の変化を示した。「余暇時間(自由な時間)」が増えたと回答した割合は 8.6 ポイント(28.4%【6月】→19.8%【10月】)減少し、「睡眠時間」「一人で過ごす時間」も同様に減少している。性別にみても同じ傾向を示し、余暇時間の対となる学校や仕事に関する時間が徐々に戻ったためと考えられる。今回の調査の「余暇時間(自由な時間)」が減ったと回答した割合は、男性 5.7%、女性 12.7%、「一人で過ごす時間」は男性 5.9%、女性 16.5%と女性のほうが高く、6 月調査と同様の傾向がみられた。新型コロナウイルスの影響による仕事や学校に関する生活の変化に性差はほとんどないものの、余暇時間などに関する生活は男性よりも女性のほうに変化がみられた。

図表 17 仕事や学校に関する生活の変化



図表 18 余暇時間などに関する生活の変化



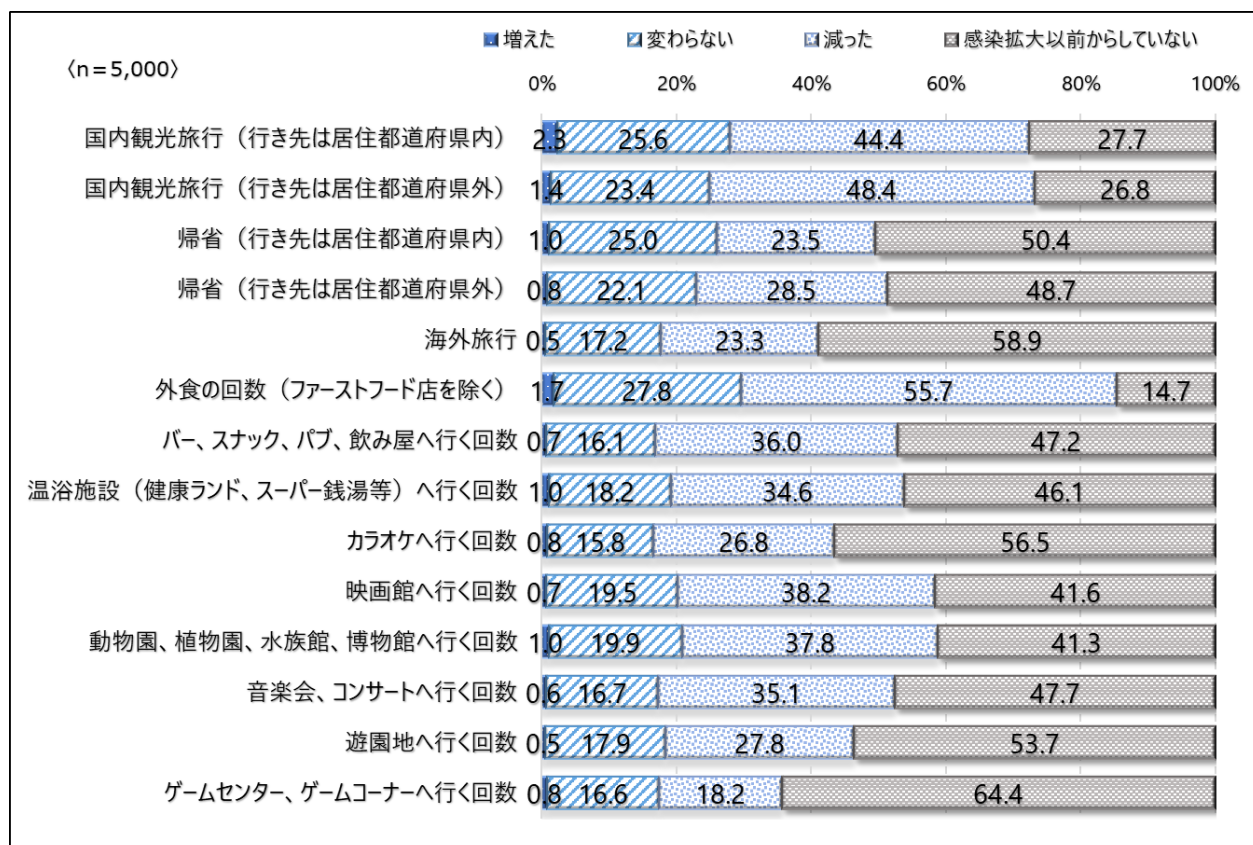
### 8) 新型コロナウイルスの影響下におけるスポーツ以外の余暇活動

新型コロナウイルス感染拡大前と比較した、2020年6～9月におけるスポーツ以外の余暇活動の回数について図表 19 に示した。「減った」と回答した割合が最も多かったのは、「外食の回数(ファーストフード店を除く)」で 55.7%であった。以下、「国内観光旅行(行き先は居住都道府県外)」48.4%、「国内観光旅行(行き先は居住都道府県内)」44.4%と続く。

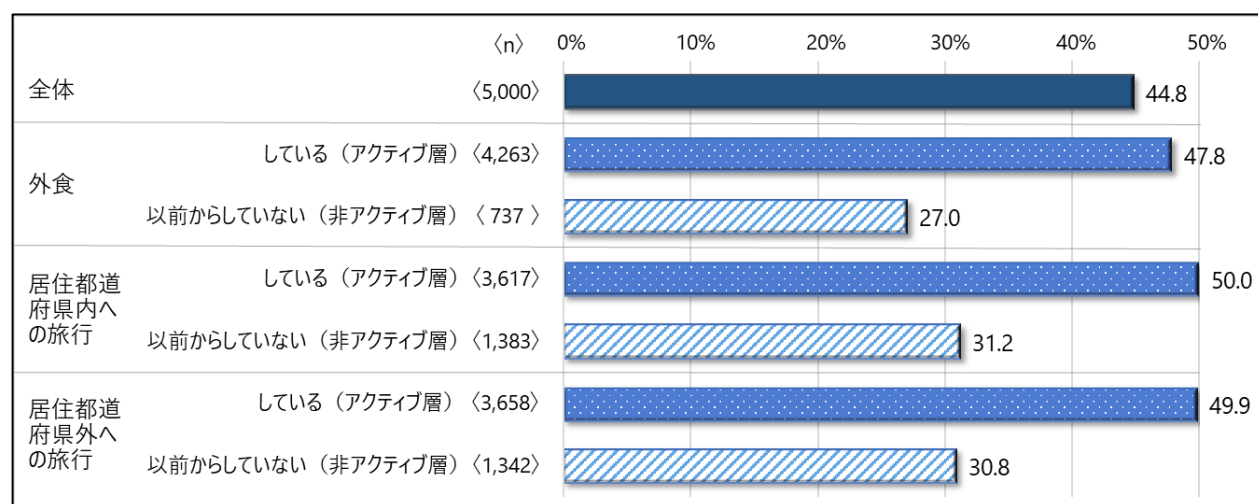
また、現在の行動回数の増減に関わらず感染拡大以前には実施していた層をアクティブ層(本調査では「増えた」「変わらない」「減った」と回答)、感染拡大以前から現在にかけて実施していない層を非アクティブ層(本調査では「感染拡大以前からしていない」と回答)と定義し、余暇活動別に 2020年6～9月の運動・スポーツ実施率みた。その結果、いずれの余暇活動でも、アクティブ層の運動・スポーツ実施率が非アクティブ層より高かった。さらに、調査対象者全体の同期間の運動・スポーツ実施率は 44.8%だが、すべての余暇活動においてアクティブ層の実施率はこれを上回っていた。そして、日々の行動として特徴的な「外食の回数(ファーストフード店を除く)」「国内観光旅行(行き先は居住都道府県内)」「国内観光旅行(行き先は居住都道府県外)」における運動・スポーツ実施率をみると(図表 20)、「外食」はアクティブ層 47.8%、非アクティブ層 27.0%と 20.8ポイント差があった。「居住都道府県内への旅行」でも 18.8ポイント差(50.0%、31.2%)、「居住都道府県外への旅行」では 19.1ポイント差(49.9%、30.8%)という結果であった。本調査では、それぞれの余暇活動が「増えた」「変わらない」「減った」人の以前の行動回数は不明だが、アクティブ層は、運動・スポーツを日頃から実施する人が多い傾向があり、非アクティブ層は、運動・スポーツ実施に消極的な人が多いと推察される。



図表 19 スポーツ以外の余暇活動に関する行動回数の変化



図表 20 特徴的な余暇活動の実施有無と運動・スポーツ実施率

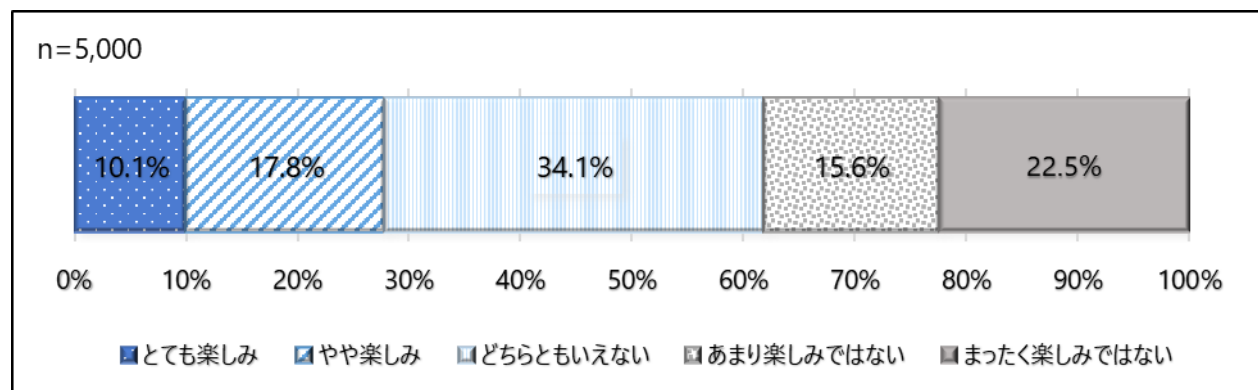


## 9) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会への期待

図表 21 に 2021 年に延期された東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会への期待を示した。楽しみと回答した人(「とても楽しみ」と「やや楽しみ」の合計)は 27.9%で、楽しみでないと回答した人(「あまり楽しみではない」と「まったく楽しみではない」の合計)は 38.1%、どちらともいえないと回答した人は 34.1%であっ

た。また、それぞれの選択肢を回答した理由(自由記述)を内容別にまとめ、多かった内容より主要 3 項目を図表 22 に示した。「とても楽しみ」「やや楽しみ」と回答した人は、世界的イベントを自国で観戦できることへの期待感があり、一方「あまり楽しみではない」「まったく楽しみではない」と回答した人は新型コロナウイルスへの不安およびそれに伴う中止の可能性を多く挙げる結果であった。

図表 21 東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの期待



図表 22 東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの期待に関する主な理由

とても楽しみ やや楽しみ	どちらともいえない	まったく楽しみではない あまり楽しみではない
滅多にない機会だから	興味がないから	新型コロナウイルスが不安だから
自国開催だから	開催できるか分からないから	中止の可能性が高いから
チケットを持っているから	新型コロナウイルスが不安だから	興味がないから